

3. 各部署報告

医 局

1 業務体制（担当業務、人数）

久代 裕史	院長	
松宮 英彦	診療部長	3 W病棟
藤田 修三		2 E病棟
島田 和浩		3 W病棟
刀川 優一		3 E病棟
太田 徹		2 E病棟
小澤 律子		3 E病棟
日野 健		3 E病棟
渡邊 徹		3 E・3 W病棟

専門医：日本リハビリテーション医学会専門医

日本内科学会認定総合内科専門医

日本脳神経外科学会認定専門医

認定医：日本リハビリテーション医学会認定臨床医

日本リハビリテーション医学会認定医

日本内科学会認定内科医

日本外科学会認定医

日本神経学会認定神経内科医

指導医：日本脳神経外科学会認定指導医

その他：日本医師会認定産業医

日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導医

厚生労働省義肢装具等適合判定医

身体障害者認定指定医

身体障害者福祉法第15条指定医

麻酔科標榜医

当院は医師9名（リハ専門医5名）で一丸となって良質なリハビリテーションを提供できるように励んでおります。

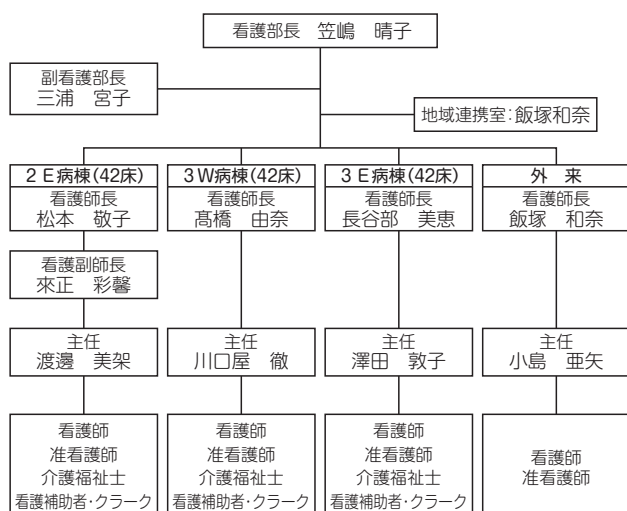
2 業務内容

脳血管疾患、整形外科疾患、その他身体や高次脳機能に障害を生じる疾患の診断、評価、治療に目指して、幅広い疾患と障害に対応できるように取り組んでいます。当科独自の検査や治療として、脳卒中患者に対する痙縮の治療（ボトックス療法）、嚥下障害の診断と治療、義足や装具の評価・作製なども取り組んでいます。患者さんの早期回復、早期退院の一助となるべく努力しています。

看護部

1 業務体制

1. 看護部組織図(2021年3月31日現在)



2. 人員構成(2021年3月31日現在)

		看護部	2 E	3 E	3 W
看護師	常	2	16	17	18
	非		2	2	1
准看護師	常		1		
	非				
看護補助者(介福含)	常		3	4	3
	非	1	5	2	4
クラーク	常		1	1	1
	非				
技能実習生	常		2	2	2
	非				
合計	常	2	23	24	24
	非	1	7	4	5

		外来	産休・育休	休職中	合計
看護師	常	2	7		62
	非	1	2		8
准看護師	常		1		2
	非	1			1
看護補助者(介福含)	常				10
	非			1	13
クラーク	常				3
	非				
技能実習生	常				6
	非				
合計	常	2	8		83
	非	2	3		22

3. 看護配置

回復期リハビリテーション病棟入院料 1

看護師 13 : 1

看護補助者 30 : 1

4. 看護配置

固定チームナーシング

5. 業務形態

看護師・准看護師・看護補助者(介護福祉士)

日勤: 8:30~17:30

夜勤: 17:00~9:00

早出: 7:30~16:30

遅出: 10:30~19:30

(早・遅・パートタイム 短時間正社員制度利用者等多数)

2 目標と評価

1. 安全と質の高い看護・介護の提供

1) 患者誤認によるインシデント減少(配膳時)

- 患者誤認によるインシデント報告件数 7 件(前年度 11 件)と減少した。

配膳時は 1 件減少したが、薬剤投与時 2 件の発生があった。マニュアルの遵守ができていなかった。

2) 倫理的視点を養うための活動強化

- 倫理的カンファレンスの開催は、各病棟で行われ年間 6 事例の実施は達成できた。

3) 歯科衛生士との連携による口腔ケアの強化

- 新型コロナウイルス感染症対策により、歯科衛生士の介入が一病棟に限定されていたため、全体への介入ができなかった。しかし、広報誌の発行を行い、知識、技術の向上に繋がる活動はできた。

4) 排泄自立を目指したケアの実践

- 病棟により対象者がいなかったこともあったが、意識し取り組むことができた。

2. 介護技能実習生への支援

1) 実習環境の整備

- 業務マニュアルが完成した。今後活用し評価していく。2 名の介護福祉士が指導者講習会を受講した。

3. 働き続けたいと思える職場環境の提供

- 1) やりがい感を持って働ける職場づくり
 - ・有給取得率は61%であった。コロナ禍であり、長期休暇希望等少なかったため、有給取得が実現しやすかった。
 - ・外部研修参加の推進では、WEB研修5テーマに参加33名が視聴した。介護技能実習指導員講習会2名が受講した。
 - ・介護職の処遇への検討はできなかった。今後は、介護職が働きやすい職場環境づくりに努めたい。

3 今後の抱負・展望

2021年度 看護部目標

1. 安全で質の高い看護・介護の提供

- 1) 患者誤認によるインシデント0件
- 2) 針刺しインシデント0件
- 3) 歯科衛生士との連携による口腔ケアの強化(システム化の取り組む)
- 4) 排泄自立支援の強化

2. 技能実習生への支援の構築

- 1) 実習環境の整備

3. 働き続けたいと思える職場環境の提供

- 1) やりがい感を持って働ける職場づくり

4. 病院経営の参画

- 1) 医療衛生材料の定数管理の徹底
- 2) レンタル品の見直し
- 3) 増床に向けての準備(人員確保)

技能実習生受け入れについて

今年度、全日本病院協会の外国人技能実習生・介護分野受入事業により、ベトナムから看護補助職種の技能実習生6名を受け入れております。

指導員の指示のもと看護補助全般の実習を行っております。

実習生の皆さんは、意欲や向上心に溢れ、その”いきいき楽しく”働く姿は、周囲へいい影響が伝播するだけでなく、質の高い医療を提供することにつながります。ともに切磋琢磨し、ますます院内の活性化を図ってまいりたいと思います。



実習生(上段)と指導員(下段)

リハビリテーション科

1 業務体制（担当業務、人数）

理学療法士	63名	作業療法士	26名
言語聴覚士	14名	助手	1名

【資格及び認定資格所得者】

セラピストマネージャー	2名
介護支援専門員	2名
福祉住環境コーディネーター2級	6名
福祉住環境コーディネーター3級	1名
アクティビティインストラクター	1名
認定理学療法士(神経筋障害)	1名
認定理学療法士(脳卒中)	1名
認定理学療法士(運動器)	1名
認定理学療法士(介護予防)	1名
健康咀嚼指導士	1名
介護予防推進リーダー	4名

●人員構成(2020年4月1日～2021年3月31日)

職員数		2020年度(対前年度)		
2019	2020	増員	減員	差引
102	104	20	18	2

2 業務内容

入院リハビリテーション(リハビリテーション室・各病棟での脳血管疾患リハビリテーション、運動器リハビリテーション、廃用症候群リハビリテーション)、外来リハビリテーション、身体計測、カンファレンス、退院前訪問指導、退院時リハビリテーション指導、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、家族指導、各種委員会

3 業務状況

・リハビリテーション診療業務

2020年度の患者一人あたりの1日の平均単位数は7.78と前年度より0.12低下したが、脳血管疾患は8.82、運動器疾患は5.93、廃用症候群は6.54と前年度と比較して各々-0.02、+0.04、+0.86単位となった。このことは例年通り、リハビリテーションを入院から退院まで適切に実施できているものと評価できる。

・教育研修

トランスファー(介助指導)、ADLの評価・実施方法(FIM運動項目)、ADLの評価・実施方法(FIM認知項目)、基本動作(寝返り・起き上がり)、基本動作(座位)、基本動作(立ち上がり・立位)、基本動作(歩行)、NST、ポジショニング、注意障害、嚥下障害、関節(股)、家屋改修、物理療法、関節(肩)、失語症、構音障害、関節(膝)、関節(肘・手)、通所リハビリ、関節(足)、半側空間無視、シーティング、記憶障害、関節(頸椎)、関節(腰椎)、自助具、遂行機能障害、下肢装具

4 取り組みと成果

FIM利得は全体で30.4点、実績指数対象者では33.7点と全国平均よりは高い実績となったが、目標を達成できなかった。特に食事項目は、前年度より0.18点下がった。

歩行練習ロボットであるWelWalkなどのリハビリテーション機器の活用により、立位・歩行項目を代表する移動項目は、全体としては0.01点の上昇幅ではあるが、脳血管疾患で0.02点、階段項目は0.22点と改善がみられた。

教育については、例年行われていた教育プログラムを新型コロナウイルス対応を機に見直し、可能な限りオンデマンド形式でできるようにした。しかし、技術的な部分は対面形式で行わなければならないため、課題となった。

5 今後の課題

新型コロナウイルスによる対応で実習が十分ではない状況もあり、新卒者の対応には今後も注意を払いつつ、教育体制のニューノーマル化が求められるところである。そのなかでデジタル化は必須であり、オンデマンド形式の導入を進めるだけでなく、AI(人工知能)、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)、MR(複合現実)、SR(代替現実)導入のスタッフ教育、患者教育やリハビリテーションにも活用する技術も開発・供給されてきているため、活用を検討していく。また、現在使用しているデータベースを拡張する他、紙ベースで行われているテスト用紙等をデジタル化し、効率化につなげていく。

●外来_患者数

单位：人

脑血管疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	33	39	37	35	36	35	34	35	43	38	34	35	36.2
2019年度	33	29	28	25	32	32	30	28	29	29	28	27	29.2
2020年度	29	13	12	13	14	14	15	13	12	10	12	11	14.0

運動器疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	12	10	9	9	8	11	10	9	11	8	10	12	9.9
2019年度	9	9	8	5	5	6	9	12	11	10	11	9	8.7
2020年度	6	3	4	4	6	4	5	4	5	4	5	6	4.7

●外来_実施单位数

单位：单位

脑血管疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	270	330	335	337	379	305	331	298	364	350	276	289	322.0
2019年度	271	218	197	178	322	307	284	211	229	268	258	218	246.8
2020年度	292	133	85	118	81	90	108	85	75	54	83	91	107.9

運動器疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	144	64	72	66	64	80	81	78	73	40	69	107	78.2
2019年度	97	104	69	43	54	57	81	130	112	112	103	82	87.0
2020年度	59	15	22	28	34	28	28	24	28	22	26	32	28.8

●入院_患者数

单位：人

脑血管疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	125	124	113	105	106	98	104	97	96	94	119	131	109.3
2019年度	114	115	118	116	120	116	117	125	116	100	111	111	114.9
2020年度	100	100	95	95	99	95	92	84	88	94	95	105	95.2

運動器疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	43	51	53	51	68	64	72	75	78	67	56	49	60.6
2019年度	54	49	57	54	45	47	47	54	52	52	63	60	52.8
2020年度	53	53	45	37	38	43	60	63	74	68	60	64	54.8

廃用症候群	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	0	0	2	4	6	4	4	4	2	2	0	0	2.3
2019年度	1	0	1	2	4	4	2	2	2	2	3	4	2.3
2020年度	4	4	4	4	5	7	6	9	8	4	5	5	5.4

●入院_疾患別单位数

单位：单位

脑血管疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	25,981	25,089	22,798	22,569	20,787	19,515	20,759	17,963	18,743	20,070	23,210	26,269	21,979.4
2019年度	23,660	24,145	23,393	24,151	24,996	24,318	23,191	23,361	24,235	23,373	21,718	22,334	23,572.9
2020年度	20,302	19,455	17,347	20,085	20,291	20,457	18,229	16,403	18,858	18,409	18,243	22,335	19,201.2

運動器疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	4,945	6,143	6,408	6,744	8,055	7,829	8,481	8,985	9,429	9,217	6,442	5,353	7,335.9
2019年度	6,350	6,787	6,596	6,509	5,830	5,195	5,982	5,894	6,567	6,946	6,542	7,471	6,389.1
2020年度	7,101	6,995	5,961	4,284	5,105	5,410	7,071	8,218	10,921	8,542	7,554	7,254	7,034.7

廃用症候群	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度			203	290	733	710	534	426	372	202			433.8
2019年度	13		17	354	418	283	265	412	419	404	324	559	315.3
2020年度	540	452	322	952	654	956	974	1,030	972	472	632	275	685.9

●入院_1日平均実施単位数(患者一人あたり)

単位：単位

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	8.17	8.07	7.90	7.87	7.63	7.63	7.61	7.44	7.49	7.54	7.96	8.10	7.78
2019年度	7.97	7.95	7.93	7.93	8.02	8.04	7.59	7.96	7.94	7.84	7.85	7.83	7.90
2020年度	7.81	7.72	7.74	8.15	8.05	8.00	7.70	7.54	7.52	7.57	7.72	7.88	7.78

●入院_疾患別1日平均単位数(患者一人あたり)

単位：単位

脳血管疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	8.90	8.85	8.85	8.89	8.84	8.84	8.73	8.80	8.84	8.89	8.88	8.84	8.85
2019年度	8.83	8.80	8.78	8.84	8.88	8.85	8.71	8.84	8.87	8.88	8.87	8.89	8.84
2020年度	8.90	8.80	8.80	8.90	8.90	8.90	8.85	8.87	8.88	8.85	8.53	8.70	8.82

運動器疾患	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	5.88	5.93	5.92	5.92	5.94	5.90	5.92	5.86	5.92	5.95	5.98	5.94	5.92
2019年度	5.90	5.95	5.92	5.90	5.84	5.89	5.83	5.89	5.91	5.91	5.91	5.86	5.89
2020年度	5.96	6.00	6.00	5.98	5.90	5.93	5.89	5.92	5.84	5.92	5.93	5.90	5.93

廃用症候群	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度			5.97	5.92	5.91	5.93	5.80	5.46	6.00	5.77			5.85
2019年度	4.33	0.00	5.67	6.00	5.87	5.89	5.88	7.35	7.61	7.62	6.00	5.94	5.68
2020年度	6.00	5.87	5.85	8.14	8.40	7.08	6.54	6.56	6.23	5.90	5.96	6.00	6.54

●退院前訪問指導実施件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	16	23	26	24	20	26	24	31	28	22	18	16	22.8
2019年度	17	30	20	20	22	27	30	21	23	20	21	1	21.0
2020年度	7	7	14	10	14	11	14	14	16	7	1	3	9.8

●調理練習実施件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	11	9	8	11	7	3	11	11	7	7	10	12	8.9
2019年度	5	8	8	7	15	13	8	10	10	8	5	1	8.2
2020年度	8	1	8	4	8	6	2	3	14	9	7	13	6.9

●外出練習実施件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	51	44	41	44	33	36	45	50	48	63	43	41	44.9
2019年度	53	36	36	40	62	57	54	53	45	47	38	15	44.7
2020年度	7	5	7	13	10	11	15	22	22	17	13	34	14.7

●訪問リハビリ実人数

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	16	16	18	17	18	22	23	23	25	27	29	32	22.2
2019年度	35	32	33	25	24	24	26	24	26	26	28	27	27.5
2020年度	26	26	27	25	26	25	26	26	28	29	30	31	27.1

●訪問リハビリ実施件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	93	94	105	104	109	126	135	130	145	155	169	198	130.3
2019年度	187	195	163	160	156	138	167	149	154	152	156	163	161.7
2020年度	120	87	83	101	92	97	101	102	100	117	134	151	107.1

●訪問リハビリ実施回数

単位：回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	227	239	258	250	267	298	329	326	355	375	406	475	317.1
2019年度	328	422	310	389	383	339	395	355	375	358	374	388	368.0
2020年度	288	209	195	246	225	237	244	245	234	276	313	348	255.0

入院	長下肢装具	短下肢装具					足底装具	膝装具	義足	体幹装具	上肢スリング	手装具	合計
		金属支柱	プラスチックシューホン	プラスチック継手	既製品	高機能							
2018年度	35	16	13	4	6	2	1	4	6	2	3	1	93
2019年度	30	14	9	2	4	2	1	6	1	7			76
2020年度	35	7	15	1	4	3		3	2	8	1		79

外来 (入院歴有)	長下肢装具	プラスチックシューホン	プラスチック継手	金属支柱	既製品	高機能	義足	膝装具	手装具	合計
2018年度	1	3		3	1	3	1			12
2019年度		9	4	6	4		1	1	1	26
2020年度		1	2	9	2				1	15

単位：件

通所	プラスチックシューホン	プラスチック継手	金属支柱	既製品	合計
2018年度	2		2		4
2019年度	3		1	2	6
2020年度	1	1		1	3

単位：件

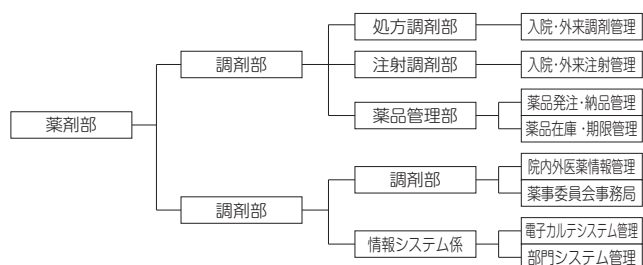
調整・修理	入院	外来 (入院歴有)	外来 (入院歴無)	通所	合計
2018年度	7	18	6		31
2019年度	3	17	1		21
2020年度	6	14	2	4	26

単位：件

総計	入院	外来 (入院歴有)	外来 (入院歴無)	通所	合計
2018年度	93	12	5	4	114
2019年度	76	26	9	6	117
2020年度	79	15	4	3	101

薬 剤 部

1 人員構成



●人員構成(2020年4月1日～2021年3月31日)

職員数		2020年度(対前年度)		
2019	2020	増員	減員	差引
5	4	0	1	-1

※全て常勤薬剤師

2 業務内容(薬剤部各業務について)

1. 内服薬・外用薬調剤業務

原則、外来・入院ともに全て院内調剤を行っている。一部、院外発行も行っているが、処方時には、全て薬剤師が院外処方箋鑑査を行った後、患者へ引き渡している。

外来院内調剤に関しては、処方自動発行後、処方内容を薬剤師が鑑査し、必要に応じ疑義照会、一包化調剤を行い、調剤鑑査および投薬指導を実施している。また、お薬手帳貼付用シールや薬剤情報書の発行も行っている。

入院調剤に関しては、原則、全患者一包化調剤を実施している。調剤は、薬剤師が、発行前処方鑑査を行ったうえで、必要に応じ疑義照会をかけ、問題解決した処方について発行・調剤・鑑査を進め、薬物療法の安全管理向上と適正使用を図っている。また、全ての臨時処方・定期処方(一部の外用薬等を除く)は、薬剤師が配薬セットを行っている。

2. 注射薬調剤業務

入院患者に対し、個人別に注射箋に基づき調剤・セットし払い出している。その際、患者に合わせた投与量、配合変化、相互作用のチェックを行い、薬剤の適正使用に関わっている。また、無菌調製が必要な場合は、薬剤部に設置してあるクリーンベンチを使用し、無菌操作による調剤を実施している。また、ハイリスク薬、配合変化、相互作用等の注意喚起も合わせて、病棟との情報共有を図っている。

3. 薬剤管理指導業務

改正薬剤師法により、従来の「情報提供義務」に指導業務が負荷された現在、当院における責務として、全入院患者を対象とし、薬剤管理指導業務を行っている。これにより、投与前の薬歴確認、処方内容はもちろん、投与後の効能効果および副作用発現の早期発見にも貢献できる。また、在宅支援を目的とし、退院後の服薬管理を含めた在宅生活上の安心・安全な薬物療法を実現するために、患者に寄り添った指導を行っている。医薬品のスペシャリストとして、幅広い知識・技能が求められ、当薬剤師も日々研鑽を積み業務にあたっている。

4. 病棟薬剤業務

2012年より診療報酬上の評価が開始された業務であるが、残念ながら回復期算定施設では、算定できないのが現状である。しかしながら、在宅支援を目的もあることから、求められている業務であることは明確である。当院においても、算定要件でもある週20時間以上の時間は担保されている。当院では、この病棟薬剤業務を中心に、1病棟1人専任として薬剤師を配置し、入院時の持参薬管理から、当院処方への切り替え、処方提案、処方後のモニタリング、退院時の在宅支援指導、ポリファーマシー対策など多岐にわたる業務を担っている。これらの業務から薬剤管理指導へ繋げ、そこで得られた患者情報、医薬品情報などの管理・発信・共有も一連の流れとして繋がっていく。そのため、他の医療スタッフとのコミュニケーションも必要不可欠な業務である。

5. 医薬品情報(DI)管理業務

医薬品情報の収集、整理、保管および提供により、適切な薬物療法の継続に寄与している。また、薬事委員会では、事務局として、薬学的情報収集、有効性と安全性などについて適切な評価を行い、経営面も含め有意義な審議を進めるために貢献している。また、院内副作用報告、他部門からの質疑応答などの情報管理も担っている。電子カルテシステムによる、処方オーダリングシステムと部門システムとの連動、それぞれの医薬品情報マスター管理も重要な業務の一つとなっている。

6. 医薬品管理業務

さまざまな薬物療法へ対応するため、医薬品の購入管理、適正在庫管理、品質管理、有効期限管理に努めている。法

的規制のある覚醒剤原料や向精神薬の管理も重要業務の一つである。また、経済的側面も非常に重要であり、診療・財務・法規とさまざまに配慮する必要がある。さらに、医薬品情報管理業務や病棟薬剤業務とも連携を図り無駄のない医薬品管理を実施している。

7. 院内専門領域への参画

感染制御領域、栄養管理領域を中心に、それぞれのチーム会およびミーティングへ積極的に参加し、薬剤師としての専門性を発揮し活躍している。今後もより高度な医療提供に寄与し、地域医療における質の向上に貢献していく。

3 業務状況

○内服薬・外用薬・注射薬調剤業務

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、入院、外来ともに処方箋枚数には減少傾向がみられた。特に外来院内処方に関しては、かなり影響を受けたと言える。しかしながら、ここで着目すべき点は、処方箋1枚当たりの調剤数にある。年々増加傾向にあるが、2020年度は、年間を通して1枚あたり4剤を超えた結果となった。これが意味することは、現在問題視されている多剤併用(ポリファーマシー)の増加ということに繋がっていると考えられる。当院データのみであっても、それを物語っている。そして、その対策として、2016年薬剤総合評価調整加算が新設された。2015年の病棟業務支援システムの入替えを機に、調剤業務のみならず、しっかりと業務シフトし、ポリファーマシー対策および病棟業務の強化を図っている。

○薬剤管理指導業務

当院は、回復期算定のため、薬剤管理指導料の算定はできないが、開院当初より全患者に対し、入院の持参薬管理から退院の在宅支援に至るまで、薬学的ケアを行ってきており、前述した通り、2015年の病棟業務支援システムの入替えを機に、飛躍的に件数を伸ばすことができた。ただし、2020年度は、調剤業務同様に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2019年度に比べると減少した結果となった。その中でも、当薬剤部員は、非算定ながらも、その重要性を十分理解し、最大限の注意を払いながら業務を遂行した。

○病棟薬剤業務

薬剤管理指導料同様、診療報酬上算定できない業務ではあるが、在宅支援としての薬剤師への社会的ニーズは必ず存在する。2019年度では、週当たりの病棟薬剤業務は23.61時間だったのに対し、2020年度は22.39時間と、その

他の業務同様、若干ではあるが減少傾向にあった。しかしながら、ポリファーマシー対策、ハイリスク薬管理など多岐にわたる業務を、減員となった状況下で最小限に留めた薬剤部員の努力と評価できる。回復期病床としての最大の目的は、急性期病床での疾患治癒とは異なり、在宅支援にある。薬剤師として在宅支援することは、医療職の管理下でない在宅生活場面での薬物療法の安全管理である。言葉で言うのは簡単ではあるが、これがなかなか難しい。われわれ回復期病床の薬剤師は、患者のComplianceを確保する事や、飲み忘れの場合、副作用を疑う症状が出現した場合など、あらゆる場面を想定して、入院した日から安心・安全な薬物療法を滞りなく継続し、その安全管理の実現に向かって業務を遂行している。

○医薬品管理業務

医薬品購入額としては、年々医療(医薬品)費増大の問題を抱えるなか、当院では、ここ数年間においては、ほぼ横ばいの状況であるものの、後発医薬品使用の推進も積極的に行ってきた事もあり、長期的には削減できていると言える。しかしながら、後発医薬品使用比率でいうと、2019年度よりやや低下傾向となった。その要因の1つとして、2020年度は、当院における主要品目の後発医薬品の発売が例年よりも多かったことが挙げられ、それに対して採用変更が追いつかなかったと考えられる。また、臨時採用薬の過剰在庫、不動在庫、有効期限切迫品の有効活用等にも力を入れ取り組んできた。

4 取り組みと成果

“服薬管理における薬剤師の在り方”を追求すべく、2019年度より継続して目標に掲げている。

以下に示す3つの柱をベースの戦略を立てた。

- ①在宅支援に向けた服薬におけるプロセス管理の強化と改善
- ②医薬品の安全管理と質の高い薬物療法の提供
- ③チーム力強化に向けた知識・技術の向上

これらを振り返ってみると、全体的に減員要素が強く影響したこともあり、現状を維持することが精一杯であったと言わざるを得ない。また、何度も言うようであるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、なかなか積極的な業務遂行が難しい状況にあったことも否定できない。ただし、このような状況のなかでも、当薬剤部員はそれぞれの役割を十分に果たしてきた。また、業務整備を併せて行ってきた効果もあり、今年度は業務縮小はせず、維持することが出来たことは成果であり、来年度以降のステップアップに繋がる。

5 今後の課題

“服薬管理における薬剤師の在り方”を継続していくなかで、薬剤師としての調剤業務のあり方についても考えを改めなければならない。2019年の厚生労働省医薬・生活安全衛生局総務課長通知「調剤業務のあり方について」（薬生総発0402第1号）の発出を受け、さまざまな病院施設・調剤薬局も影響を受けた。これは、薬剤師の対物業務を委譲し、管理監督へ移行することで、対人業務・サービス提供を国として強化を進めることを意味したものであった。当院でのマンパワー不足解消のためにも、今後のリクルート活動を強化していき、薬剤部としての体制見直しを図りたい。

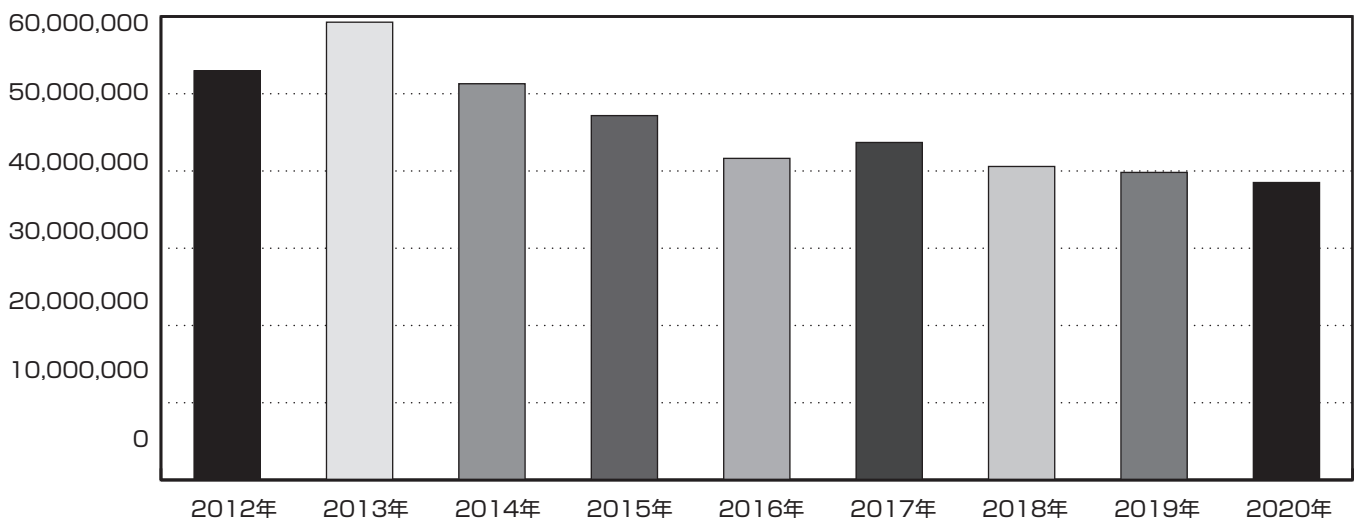
前述にもあるように、処方箋1枚あたりの調剤数が4枚を超え、年々増加傾向にあることは間違いない。しかも、これは、外用薬の臨時処方等も含む数値となっている。つまり、内服定期処方のみを考えれば、もっと増加する。過去に取った当院の集計では、全入院患者のうち半数以上は、65歳以上かつ6剤以上服用しているという結果となったのだ。日本老年医学会によると、6剤以上服用している患者では13.1%有害事象が引き起こされるというデータもある。仮に、それを当院に当てはめると、1病棟当たり3人は、ポリファーマシーが要因となる有害事象を引き起こすこととなる。その有害事象を未然に防ぐためにも、われわれ薬剤師には薬物療法のスペシャリストとしての知

識と技能が求められる。2016年薬剤総合評価調整加算が新設し、2020年の改訂を経て、ポリファーマシー対策は、われわれにとっても課題であると言える。改訂されたため、直接的な比較はできないが、2019年度薬剤総合評価調整加算算定が22件であったのに対し、2020年度薬剤調整加算算定は32件であった。少しずつ結果は見え始めているが、ポリファーマシーの減少には至っていない。薬物療法のスペシャリストとして、より積極的な介入が求められ、それに答えていかなければならない。医薬分業の時代を経て、どんどん職種による役割・責任が明確化されてきたなかで、患者を取り巻く医療環境を考えた際、回復期病床での薬剤師の重要な役割は、やはりポリファーマシー対策なのではないかと考えている。維持期を迎えるまでの間に、入院管理下において、いかに不要な併用薬を削減し、有害事象を未然に防ぐことへ繋がられるかが求められている。そして、これら薬物療法としての情報を次のステップへ継続して伝達されていく地域連携が重要となり、今後当院としても力を入れていきたい。

急性期・慢性期医療そして回復期・地域包括ケア、在宅生活といった多面的な医療の場において、薬物療法が継続される限り薬剤師は存在する。それぞれの役割を理解し、それぞれが行ってきた業務内容を途切れることなく情報伝達されていく。特に、在宅生活のなかで、安心・安全な薬物用法を継続できる環境構築に尽力していきたい。

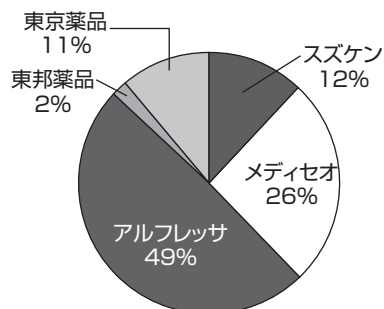
● 医薬品購入金額

2012年度	¥52,972,195.000	2017年度	¥43,691,661.000
2013年度	¥59,263,869.000	2018年度	¥40,584,357.000
2014年度	¥51,292,482.000	2019年度	¥39,815,627.000
2015年度	¥47,170,328.000	2020年度	¥38,506,823.000
2016年度	¥41,632,898.000		



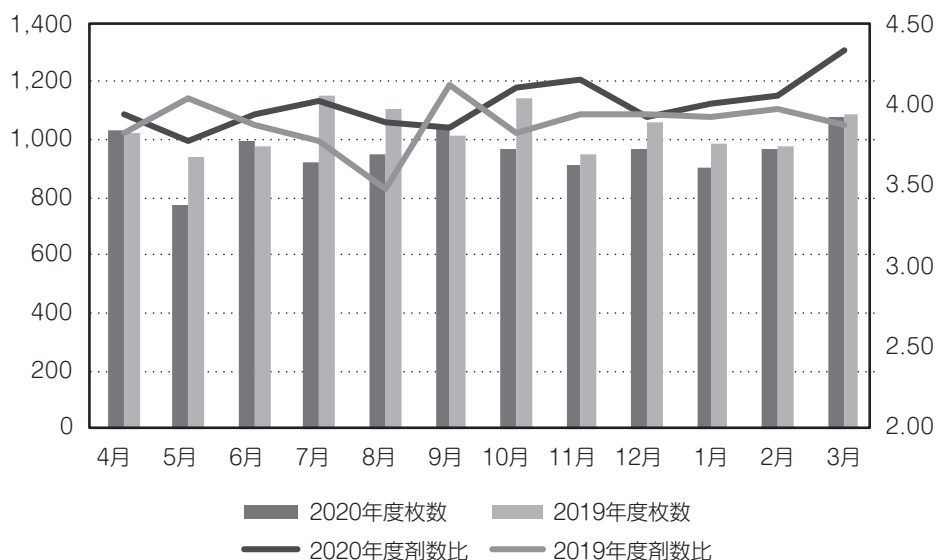
●医薬品購入先実績

	2019年度	2020年度
スズケン	¥4,687,443.00	¥4,626,605.00
メディセオ	¥11,905,696.00	¥9,876,181.00
中央医科薬品	¥12,819.00	¥41,018.00
アルフレッサ	¥18,927,001.00	¥18,711,238.00
東邦薬品	¥1,066,437.00	¥891,102.00
献血供給事業団	¥0.00	¥44,460.00
東京薬品	¥5,058,368.00	¥4,101,069.00



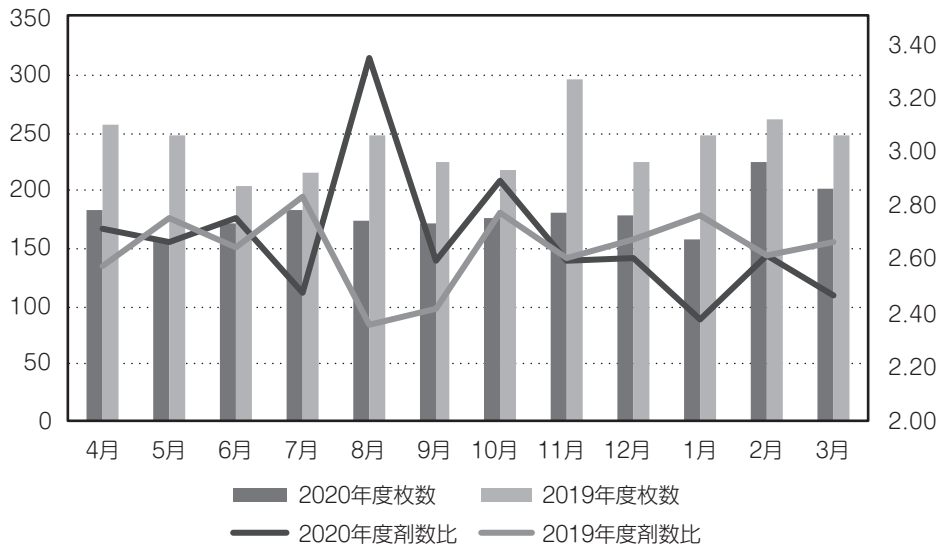
●処方箋枚数と1枚あたりの薬剤数(入院)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
		2018年度	薬剤数	3.87	3.70	3.93	3.85	3.94	3.98	4.17	3.89	3.85	3.86	3.87
	枚数	945	1078	938	1065	1035	983	1161	1000	1042	1075	1022	1009	12353
	調剤数	3654	3992	3684	4098	4077	3912	4843	3888	4007	4152	3957	3853	48117
2019年度	薬剤数	3.82	4.04	3.87	3.77	3.48	4.13	3.83	3.94	3.94	3.92	3.97	3.87	3.88
	枚数	1019	941	978	1150	1107	1010	1142	948	1060	988	980	1088	12411
	調剤数	3891	3799	3788	4340	3848	4167	4369	3733	4172	3876	3895	4214	48092
2020年度	薬剤数	3.94	3.77	3.94	4.02	3.88	3.86	4.10	4.15	3.92	4.00	4.05	4.34	4.00
	枚数	1030	776	993	919	952	1041	968	910	969	902	963	1076	11499
	調剤数	4057	2926	3913	3695	3698	4019	3970	3774	3800	3607	3904	4669	46032



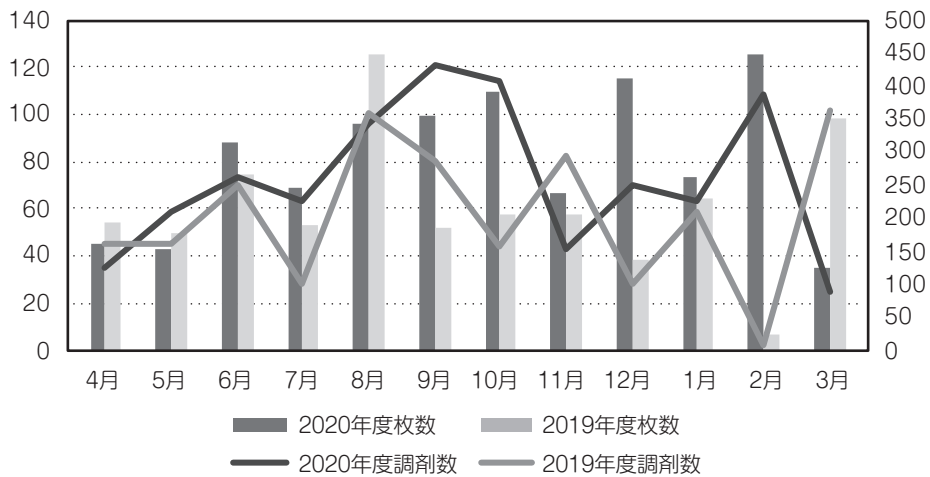
●処方箋枚数と調剤数(外来)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
		2018年度	薬剤数	2.61	2.72	2.89	2.85	2.78	2.81	2.64	2.87	2.75	2.76	2.67
	枚数	230	245	216	239	210	208	232	243	259	282	257	276	2897
	調剤数	601	667	624	682	583	584	612	698	713	777	686	654	7881
2019年度	薬剤数	2.58	2.76	2.64	2.83	2.36	2.42	2.77	2.61	2.68	2.76	2.62	2.67	2.64
	枚数	257	247	205	215	247	225	217	297	226	249	261	249	2895
	調剤数	663	681	542	609	583	545	602	774	605	688	684	664	7640
2020年度	薬剤数	2.72	2.67	2.75	2.48	3.35	2.60	2.90	2.60	2.61	2.38	2.62	2.47	2.68
	枚数	183	156	171	184	174	171	176	181	179	158	224	203	2160
	調剤数	498	416	471	457	583	444	510	470	467	376	587	502	5781



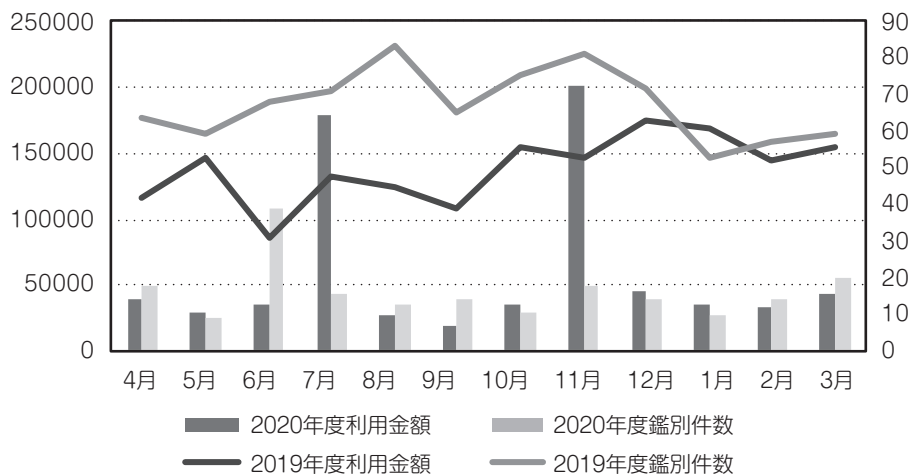
●注射箋枚数と調剤数

入院		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	枚数	54	50	75	53	126	52	58	58	38	65	7	99	735
	調剤数	162	162	251	101	358	287	156	294	101	211	7	362	2452
2020年度	枚数	45	43	88	69	96	100	110	67	115	73	126	35	967
	調剤数	126	211	263	227	344	432	410	155	249	227	387	87	3118



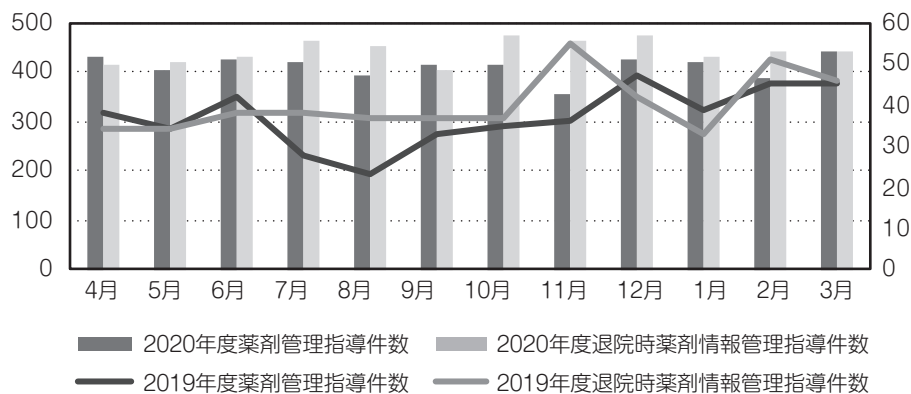
●注射箋枚数と調剤数

入院		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	鑑別件数	64	59	68	71	83	65	75	81	72	53	57	59	807
	利用金額	502995.297	255393.76	1089819	429282.07	349972	386420	297383.48	489888	386023.07	272063	400652.9	561030.482	5420923.059
2020年度	鑑別件数	42	53	31	48	45	39	56	53	63	61	52	56	658
	利用金額	398403.15	282692.4	347690	1791474	272702.423	191547.78	353288.2	2012745	463166	354817.158	334873	431031.772	7234430.883



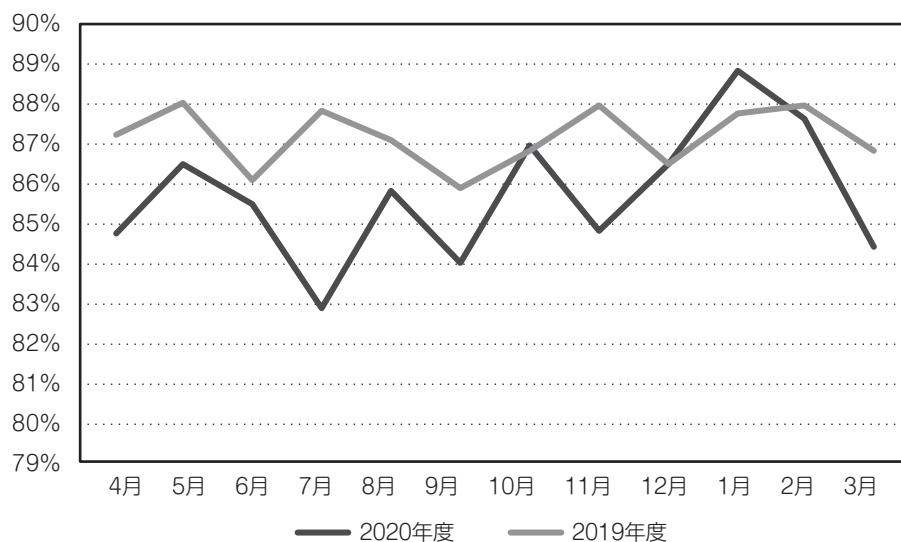
●薬剤管理指導と退院時薬剤情報管理指導(非算定)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	薬剤管理指導件数	416	418	433	463	453	403	476	465	474	429	440	440	5310
	退院時薬剤情報管理指導件数	34	34	38	38	37	37	37	55	42	33	51	46	482
2020年度	薬剤管理指導件数	431	404	427	420	394	416	413	355	427	422	386	441	4936
	退院時薬剤情報管理指導件数	38	34	42	28	23	33	35	36	47	39	45	45	445



●後発医薬品使用比率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019年度	87.2%	88.0%	86.1%	87.8%	87.1%	85.9%	86.8%	88.0%	86.5%	87.8%	87.9%	86.8%
2020年度	84.8%	86.5%	85.5%	82.9%	85.8%	84.0%	87.0%	84.8%	86.5%	88.8%	87.6%	84.4%



画像診断部

1 業務体制 (担当業務、人数)

●人員

診療放射線技師(常勤) 2名

●使用機器

一般撮影キャノン：MRD-A50S/22

ポータブル キャノン：IME-200A

CR装置 富士フィルム：CR-IR348 CL

CT装置 キャノン：TSX-021B/4A

TV装置 キャノン：DREX-ZX80

PACS トーテック：INFINITT

2 業務内容

- ・一般撮影：胸部、腹部、脊椎、ポータブル、その他
- ・C T：頭部、胸部、腹部、脊椎、その他
- ・T V：胃透視、嚥下造影、その他
- ・その他：画像データのサーバーへの入力及びメディアへの出力

3 業務状況

一般撮影：総件数では、2019年度比の75%に留まった。(図1)

部位別では、頭頸部及び胸腹部において2019年度比の60%台となったが、躯幹及び四肢では2019年度比の90%~100%の間に留まっている。(表1)

C T：総件数では、2019年度比の135%に増加した。(図2)

部位別では、頭頸部において2019年度比で80%台となったが、胸腹部は2019年度比200%の上昇となり、2019年度比の躯幹では250%・四肢150%の増加となった。(表2)

T V：総件数では、2019年度比の33%に及んだ。(図3)
2020年度の施設健診は感染防止対策のため実施しておらず、胃透視は0件となる。
嚥下造影は、2019年度比の96%とほぼ横這いとなった。(表3)

4 取り組みと成果

2020年度はコロナ禍における業務となり、感染防止に力を入れる取り組みとなったため、撮影件数の増減に大きく影響が及んだ。当院に入院となる患者に対し、水際対策として入院当日にCOVID19検出検査及び胸部C T撮影を行うが、その際の感染対策として防護具の装着、患者毎の撮影機器の清掃を行った。外来患者に対しても同様の対応を行っており、感染持ち込み防止になっている。

5 今後の課題

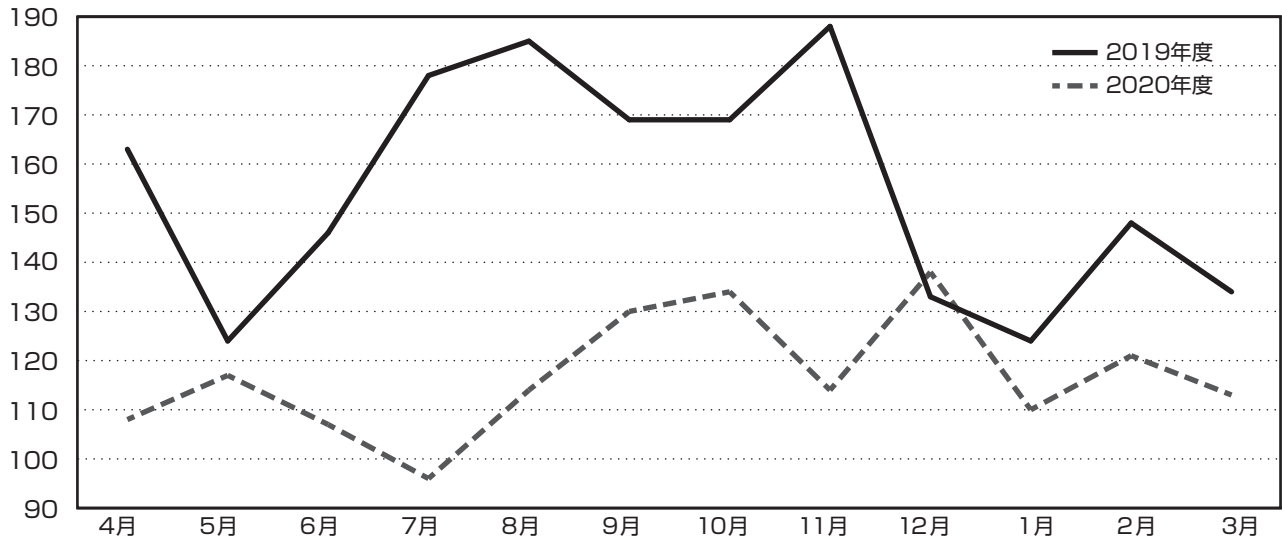
今後も感染対策下における業務の継続が予想され、撮影時の感染防止策はもとより、“感染しない”・“感染させない”“持ち込まない”を心掛け、院内感染の防止に努めたい。また、従来通り患者のリハビリテーションの成果に支障をきたさないためにも、患者動線の確保や撮影台への移乗時の補助を確実にいき、撮影室内における転倒等の事故防止を継続していきたい。

今後、増床計画が控えているため、これに対して他部署と連携をはかり画像診断部として可能な限りの支援を行い、計画がスムーズに進むよう協力をしていきたい。

●一般撮影件数(図1)

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
2019年度	163	124	146	178	185	169	169	188	133	124	148	134	1,865	2,077
2020年度	108	117	107	96	114	130	134	114	138	110	121	113	1,402	1,865



●部位別件数(表1)

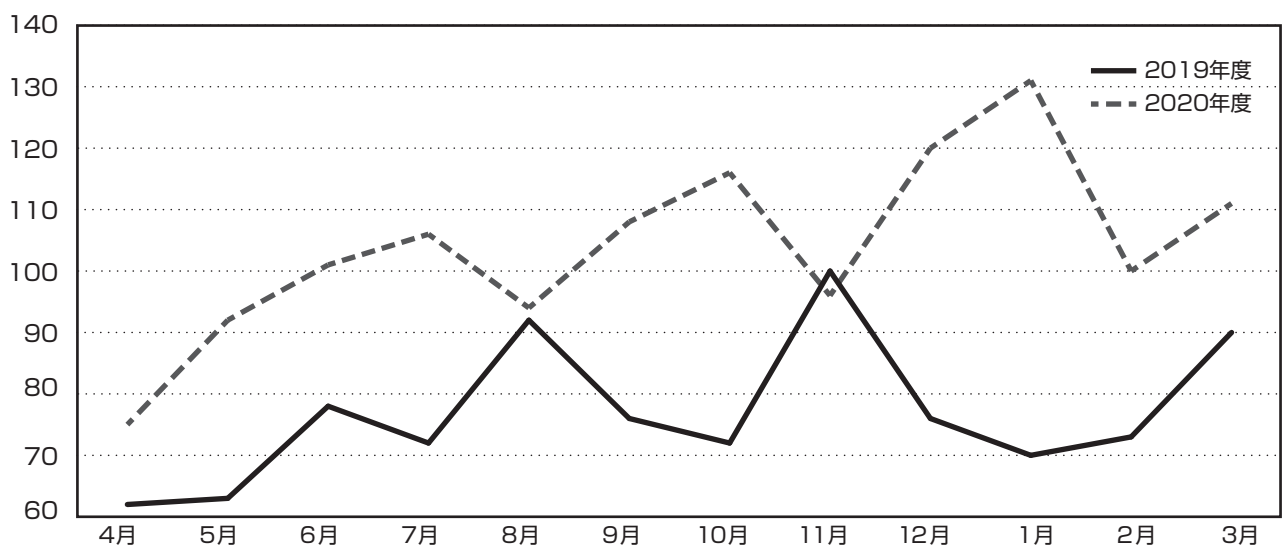
単位：件

	頭頸部	胸腹部	躯幹	四肢
2019年度	91	1785	641	333
2020年度	60	1231	647	285

●CT総件数(図2)

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
2019年度	62	63	78	72	92	76	72	100	76	70	73	90	924	931
2020年度	75	92	101	106	94	108	116	96	120	131	100	111	1250	924



●部位別件数(表2)

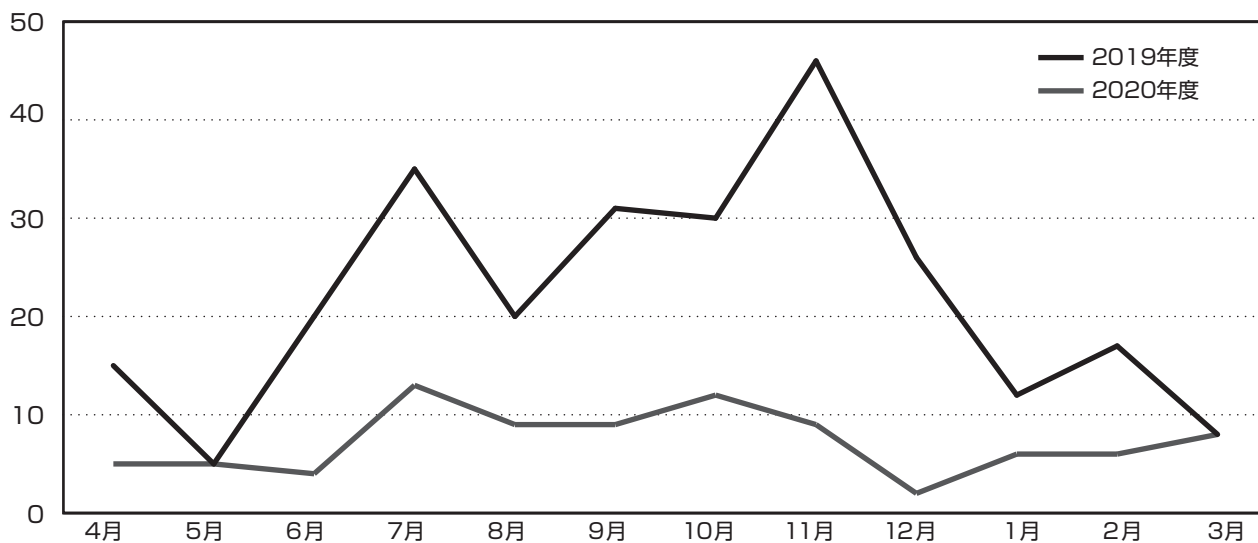
単位：件

	頭頸部	胸腹部	躯幹	四肢
2019年度	603	305	10	6
2020年度	485	731	25	9

●TV総件数(図3)

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
2019年度	15	5	20	35	20	31	30	46	26	12	17	8	265	281
2020年度	5	5	4	13	9	9	12	9	2	6	6	8	88	265



●部位別件数(表3)

単位：件

	胃透視	嚥下造影	PEG交換	その他
2019年度	165	75	2	22
2020年度	0	72	0	2

臨床検査科

1 業務体制 (担当業務、人数)

臨床検査技師(2名)
検体検査、生理検査
認定資格
消化器内視鏡技師 1名
特定化学物質および四アルキル鉛等作業主任者 1名

2 業務内容

【検体検査】

一般検査、生化学検査、血液学検査、細菌塗抹検査

【生理検査】

心電図、ホルター心電図、心エコー、腹部エコー、体表エコー、下肢静脈エコー、肺機能、聴力

【委員会活動】

医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、感染対策チーム、NST委員会

3 業務状況

●新規導入検査

COVID-19遺伝子検査
[Lifecase SmartAmp] (DNAFORM)

●精度管理参加状況

(2020年度日本医師会)

評価A + B / 97.4%

評価C / 2.6%

(2020年度日本臨床検査技師会)

評価A + B / 97.4%

評価C / 2.6%

(2020年度富士ドライケムサーベイ)

評価A + B / 100.0%

●検査依頼項目件数推移

・検体検査は、前年比で13.3%の減少(8,858件減)
各内訳は、一般24.1%・生化13.1%・血液10.9%・細菌13.0%・免疫9.4%となる。

●主な生理学検査の年間処理件数

・心電図863件、ホルター心電図6件、聴力262件、眼底カメラ47件、腹部エコー25件、体表エコー11件、下肢エコー66件、心エコー80件
生理学部門は、全体としては前年比35.5%の減少となった。(729件減)

4 取り組みと成果

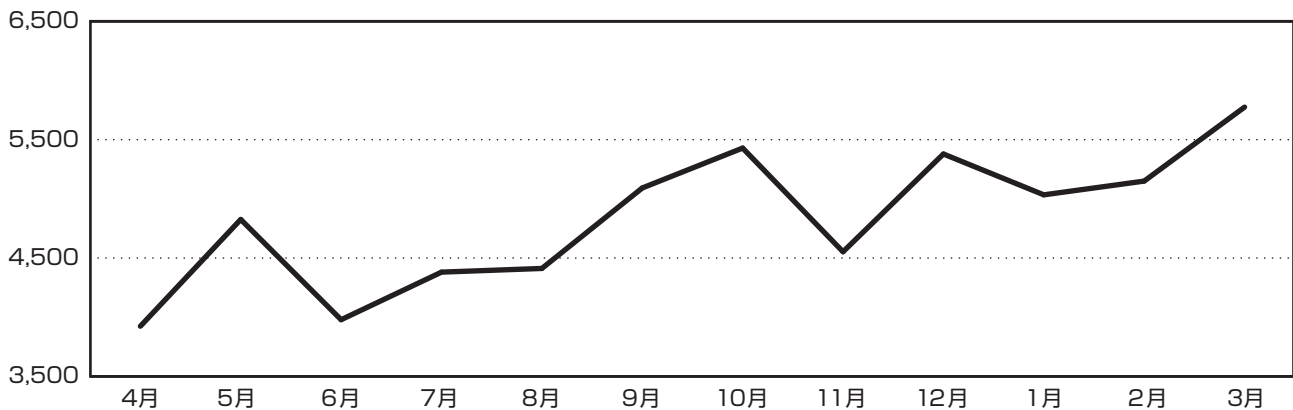
新型コロナウイルス関連の検査では、まずPCR検査の外部委託を整え、次に抗原検査の院内導入を行った。PCRは入院時スクリーニングで行い、抗原検査は休日・夜間帯でも看護師が実施できるようにした。2020年12月、新型コロナウイルス遺伝子検査である「SmartAmp検査」を院内検査として導入し、患者・職員の発熱時の対応や、ベッドコントロールへの貢献のため、迅速に結果を返すように取り組んでいる。

5 今後の課題

2023年度の増床を視野に入れて、人員の補充や検査機器の入れ替え等を考慮した業務見直し、マニュアル改訂を考えている。スタッフ数は少ないが効率的な検査体制の構築を目指す。

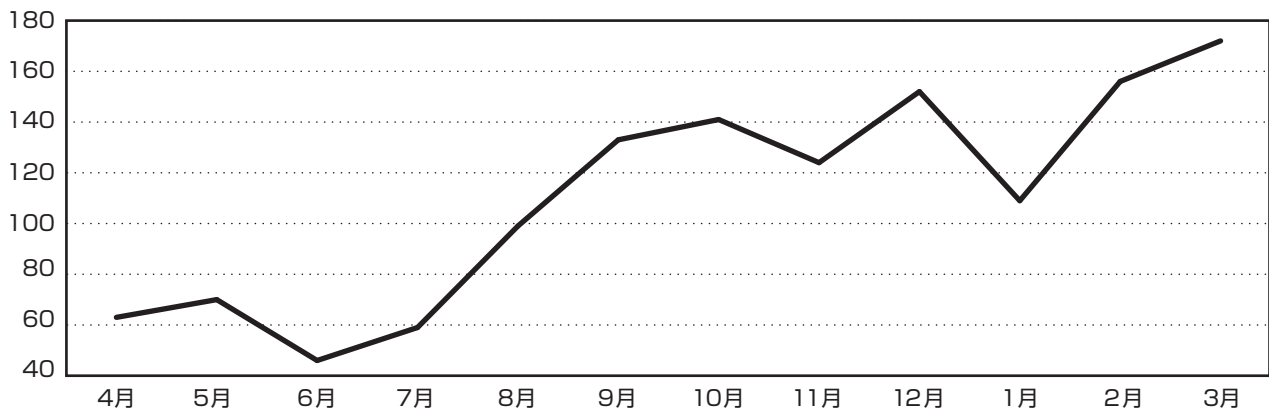
●検体検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
一般検査	216	267	224	227	260	307	358	267	356	283	328	333	3,426	4,514
血液検査	459	525	431	478	457	522	588	486	570	462	485	564	6,027	6,768
臨床化学	2,803	3,399	2,901	3,248	3,239	3,741	3,925	3,332	3,881	3,783	3,813	4,139	42,204	48,561
免疫検査	420	588	394	401	421	488	529	451	540	483	491	717	5,923	6,539
細菌検査	25	47	29	26	35	34	29	15	31	23	33	22	349	401
病理・細胞診検査	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	5	9
合計	3,924	4,826	3,979	4,381	4,412	5,092	5,429	4,553	5,379	5,034	5,150	5,775	57,934	66,792



●検体検査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
心電図	46	53	37	50	67	78	86	82	94	72	92	106	863	1,144
ホルター	0	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0	6	6
肺機能	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	11
聴力	1	3	2	4	22	40	33	17	31	16	45	48	262	517
腹部エコー	1	3	3	0	0	2	2	4	3	4	2	1	25	80
体表エコー	0	3	0	1	2	0	2	1	0	0	1	1	11	38
頸動脈エコー	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	8
下肢エコー	9	3	3	2	4	6	6	6	8	4	4	11	66	69
心臓エコー	6	5	1	1	1	1	4	7	3	5	2	4	40	51
血液ガス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
眼底カメラ	0	0	0	0	1	5	6	6	11	8	9	1	47	127
合計	63	70	46	59	99	133	141	124	152	109	156	172	1,324	2,053



栄 養 科

1 業務体制 (担当業務、人数)

- ・給食業務：委託給食
- ・委託給食管理、栄養管理、栄養指導業務 5名(担当病棟制)

【資格保持および認定資格取得者】

- ◆日本静脈経腸栄養学会認定 NST専門療法士(既取得者3名)
- ◆神奈川糖尿病療養指導士認定機構認定 神奈川糖尿病療養指導士(既取得者1名)
- ◆人間ドック学会認定 人間ドック健診情報管理指導士(既取得者1名)

【認定研修終了者】

- ◆神奈川県保険者協議会 特定保健指導に従事する実践者育成研修会(既修了者1名)
- ◆全日本病院協会認定 特定保健指導実施者育成研修(既修了者1名)

人員構成

職員数		2019年度(対前年度)
2019年度	2020年度	増員
4	5	1

2 業務内容

	業務内容
入院時食事療養運営の統括	・栄養委員会の運営(嗜好調査やイベント食の企画・実施等) ・給食施設栄養管理報告書の作成・提出・保管
栄養管理業務	・院内約束食事箋の作成 ・献立・食事箋の管理(施設側でのダブルチェック) ・検食の実施 ・入院時食事療養の関わる書類の作成、確認 ・栄養管理計画の立案・実施・モニタリング・評価 ・体制強化加算に関する帳票類の作成 ・NST事務局
調理・作業管理	・調理作業に対する指示、作業実施状況の確認、管理点検記録の確認
材料管理	・給食材料の点検、使用上の確認

施設管理	・給食施設・設備の管理、使用食器の確認
業務管理	・勤務表、業務分担・職員配置表の確認
衛生管理	・衛生管理マニュアルの確認 ・施設・設備の衛生管理 ・調理従事者に対する衛生教育 ・ヒヤリハット事例の分析と対策
その他	・各種マニュアルの作成・確認 ・特定保健指導の運営・実施 ・栄養指導 ・菊名記念クリニックへの出向(栄養指導業務)

3 業務状況

●2020年度目標

- ①安心安全な食事の提供
 - ・誤配膳を前年度比10%削減(2.6件/月以下)を目指す
 - ・衛生検査(3回/年実施)でATP値管理項目基準内4/5項目以上
- ②患者様に貢献できる栄養士の育成
 - ・入院時から退院後の後方連携を含む栄養管理の充実(入院時、退院時の栄養指導件数の増加)
 - ・リハビリテーション総合実施計画書に基づいたリハビリテーションの効果や実施等の多職種共同評価への参画

●2020年度目標達成状況

- ①安心安全な食事の提供
 - ・インシデントアクシデント対策強化
検品マニュアルの作成及びマニュアル遵守指導を委託会社へ実施するも委託会社の人員の入れ替わりによりインシデント件数は前年度比と横這いだった。
2019年度：2.9件/月→2020年度：2.9件/月
 - ・厨房内清掃システムの再構築(定期清掃計画の見直し、受託側・委託側協働の点検等)により衛生検査(3回/年実施)でATP値管理項目基準内4/5項目以上は達成できた。
2019年度：ATP値管理項目基準内4/5項目→2020年度：ATP値管理項目基準内4/5項目
- ②患者様に貢献できる栄養士の育成
 - ・入院時、退院時の栄養指導件数の増加は新型コロナウイルス感染症予防のため家族の面会制限があり、指導

件数増加は達成できなかった。

栄養指導件数(入院時・退院時) 2019年度：34件/月
→2020年度35件/月

- ・リハビリテーション総合実施計画書に基づいたリハビリテーションの効果や実施等の多職種共同評価への参画
2020年度：100%の入院患者へ実施

4 取り組みと成果

開院当初から常勤管理栄養士の病棟専任を実施していたが、2020年度は診療報酬改定により常勤管理栄養士の配置が努力義務として明記され、多職種が管理栄養士の役割を再認識する良い機会となった。当院でも各担当病棟管理栄養士が全入院患者に対し多職種共同でリハビリテーショ

ン総合実施計画書を作成し、これに基づいてリハビリテーションの効果、実施方法等についての共同評価に参画することができた。

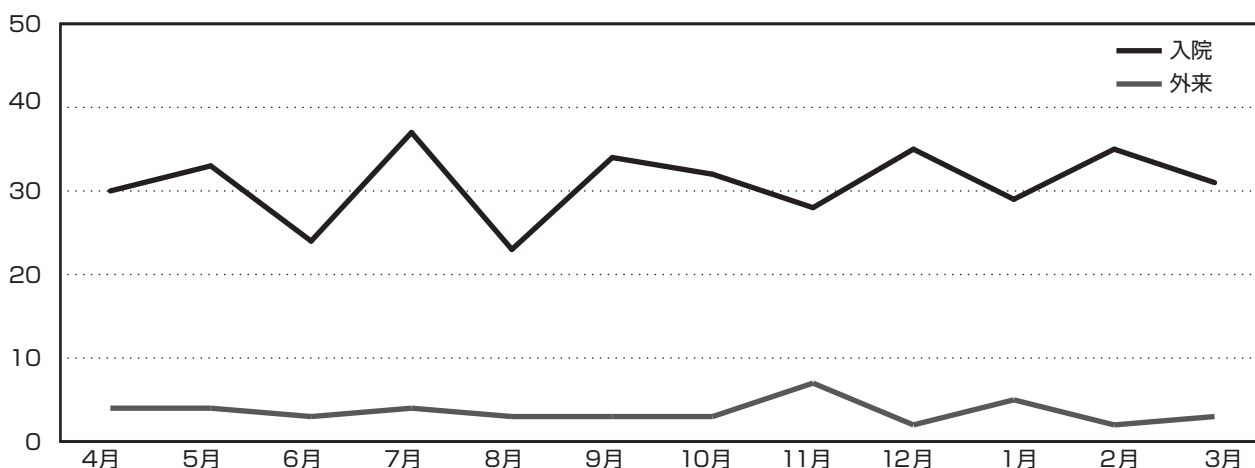
5 今後の課題

入院から自宅退院までの栄養管理のさらなる充実を図るため後方連携の強化を図り、入院患者の生活の質の維持に努めたい。具体的には退院時栄養指導の際にかかりつけ医や施設の主治医宛てへの栄養情報提供、当院の外来利用(内科・嚥下)の推奨、ソーシャルワーカー、ケアマネと連携したサービスの検討等、回復期の管理栄養士としての役割を理解し専門性を発揮できる管理栄養士の育成に努めたい。

●栄養指導件数

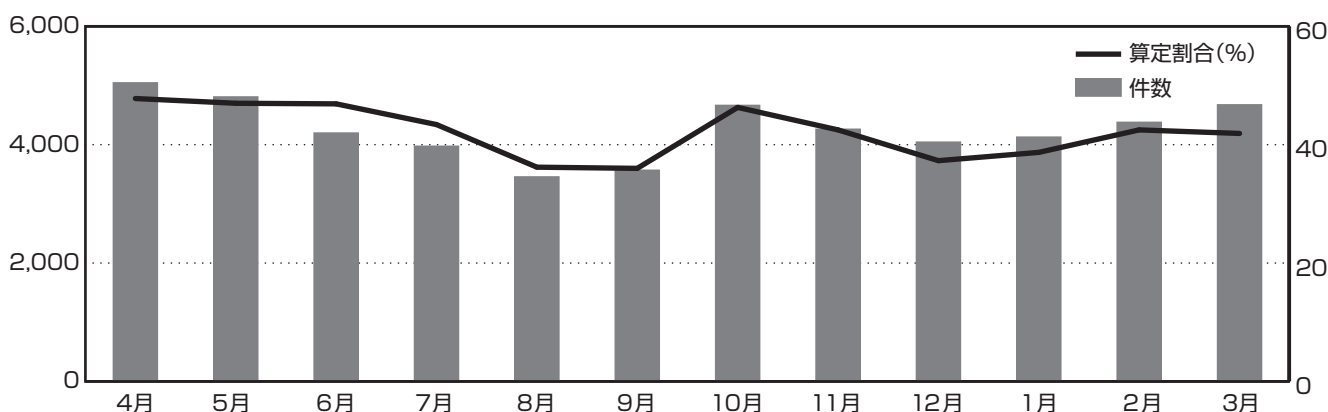
単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	前年度合計
入院	30	33	24	37	23	34	32	28	35	29	35	31	371	31	452
外来	4	4	3	4	3	3	3	7	2	5	2	3	43	4	57
合計	34	37	27	41	26	37	35	35	37	34	37	34	414	35	509



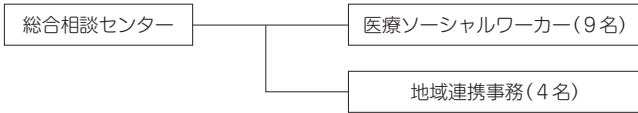
●特別食加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
件数	5,046	4,808	4,198	3,975	3,457	3,569	4,665	4,262	4,044	4,129	4,379	4,675	4,267	5,067
算定割合(%)	47.8	47.0	46.9	43.4	36.2	36.0	46.3	42.5	37.3	38.7	42.5	41.9	42.2	49.2



総合相談センター

1 業務体制 (担当業務、人数)



2 業務内容

1. 紹介患者の入院調整
2. 急性期病院の転院調整
3. 退院支援業務(在宅調整・施設紹介等)
4. 紹介患者に関わるデータ管理及び分析
5. 渉外活動
6. 総合相談窓口(社会保障相談・説明等)

3 業務状況

2020年度は新型コロナウイルスの影響により受入に非常に苦慮した年度であった。

相談件数は2019年度1267件に対して 2020年度は1066件であった。紹介入院件数については2019年度544人に対して2020年度は506人と減少した。

2021年度は安定した受入と稼働を意識した業務への取り組み、患者・ご家族様から入院して良かった、医療機関からは紹介して良かったと思える病院を目指していく。

4 取り組みと成果

稼働向上を早期受入を実現するために、病棟看護師とともに入院調整を行い、さらに医師・病棟・相談室間の情報共有を円滑にすることで今まで以上の迅速な受入と地域との競争を病院全体で意識していく。

成果として相談から入院までの日数を大幅に短縮することは叶わなかったが紹介元に対する質問事項も減少し、院内の情報共有も円滑となった。

今後も継続して前途の姿勢で業務に取り組んでいきたい。

5 今後の課題

・職員の知識向上

医師・看護師と入院調整をはかる役割として疾病に対する知識が不十分であることから、自己研鑽を推進知識の習得を目指す。

・受入決定率の向上

毎月の平均決定率が約40%と低い水準である。近隣に回復期病院が多くあるなかで併願の相談がほとんどであることから入院相談は今まで以上に伸び悩む環境下にある。1件の重要性を意識し、受入決定率を高めるためにケースを振り返り相談内容の見極めと決断力の向上に努める。

通所リハビリテーション

主任 新坂 真佐美

1 業務体制 (担当業務、人数)

管理者	病院長兼任	介護福祉士	7名
医師	1名		*内1名：病欠
看護師	2名		1名：産休
理学療法士	3名	運転手	6名(1名総務)
作業療法士	1名	事務員	1名

2 業務内容

要支援・要介護認定を受けた方を対象に、心身機能や日常生活動作の維持向上を図ることが出来るように、医師の指示の下、リハビリ専門職がその方に必要なリハビリテーションを提供する。

○提供時間(定員)

- ・10時 ～ 15時15分 (35名)
- ・10時 ～ 12時 (5名)
- ・14時 ～ 16時 (5名)

○提供サービス

送迎：リフト車等でご自宅と施設間の送迎を行う。

健康観察：体温・血圧・脈拍測定を行い、体調の確認。
月1回の体重測定を行い、栄養状態について確認する。

集団体操：スタッフの指揮の下、手足から身体全身をゆっくりほぐしていく。

口腔体操：飲み込みを行いやすくする為の口や舌の準備体操を行う。

食事：カロリー調整や高血圧・糖尿病の有無、食べやすい工夫など専門の栄養士が利用者の状況に合わせた食事を提供する。(おやつと飲み物の提供)

整容：食後の歯磨きの促し・爪切り・手浴などを行う。

排泄：利用者の身体状況等、必要に応じた排泄介助を行う。

個別リハビリ：医師の指示の下、理学療法士・作業療法士が個別リハビリテーションを実施する。

○各種加算項目

要介護	<ul style="list-style-type: none">・通所リハマネジメント加算 I・通所リハ短期集中個別リハ加算・通所リハ中重度者ケア体制加算・通所リハサービス提供体制強化加算 I・通所リハ理学療法士等体制強化加算・通所リハ提供体制加算 3・通所リハ処遇改善加算 I・通所リハ特定処遇改善加算 I
要支援	<ul style="list-style-type: none">・予防通所リハ運動器機能向上加算・予防通所リハマネジメント加算・予防通所リハサービス提供体制強化加算 I 1・I 2・予防通所リハ処遇改善加算 I・予防通所リハ特定処遇改善加算 I

3 業務状況

この一年は、新型コロナウイルス感染対策を重点に業務が執り行われた。

身体機能の維持向上にとって、リハビリテーションはとても大切だが、それよりも私たちスタッフは、利用者の“命”を一番に考えた。

その為、集団感染の要因となる「3つの密」を出来る限り避け、利用者の人数調整を行った。

また、職員自身の感染対策にも徹底し、患者・職員ともに新型コロナウイルス感染症、あるいは体調不良者を出すことなく一年を終えることができた。

4 取り組みと成果

・稼働率向上に関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、業績に繋げることができなかった。

感染防止対策をはかりながら、積極的に見学も受け入れたが、月平均1名の新規利用者の受け入れに留まった。

・サービス担当会議への積極的参加と、日々の利用者の情報共有強化により、近隣居宅事業所からの問い合わせも、かなり増えている。今後は安定した紹介件数確保に努めたい。

・医師監修の下、体調管理表を作成し配布、来所日の利用者及び家族の体温・体調観察を行い、感染症防止に繋げることができた。

5 今後の課題

- ・感染予防を強化しつつ、稼働率の向上をはかる。
- ・施設間の更なる連携強化を目指す。
- ・令和3年度の介護保険改定を視野にいれ、アウトカム評価を用いた介護サービスの質の向上に努める。
- ・業務効率化をはかり、職員が働きやすい職場環境を構築する。

①通所リハビリ登録人数

98名(3月31日現在)

②利用者男女比

男性	41名	41.80%
女性	57名	58.20%

③登録利用者疾患別割合

脳血管障害疾患	45.0%
運動器疾患	46.0%
廃用症候群	3.0%
神経難病	5.0%
その他	1.0%

④介護度別割合

要支援1	0.7%
要支援2	28.5%
要介護1	6.7%
要介護2	36.8%
要介護3	20.3%
要介護4	7.0%
要介護5	0.0%

⑤新規利用者 13名

内訳

⑥介護度別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
要介護5	14	25	10	16	17	16	4	4	4	0	0	0	110	217	50.7%
要介護4	35	137	27	32	30	25	33	31	31	27	35	38	481	698	68.9%
要介護3	95	61	71	91	94	115	114	109	107	102	96	110	1,165	2,185	53.3%
要介護2	150	29	117	173	192	194	217	195	174	175	168	199	1,983	2,949	67.2%
要介護1	36	13	20	27	41	45	40	33	33	34	38	36	396	442	89.6%
要支援1・2	120	88	107	143	136	146	154	161	144	126	124	158	1,607	2,558	62.8%
月別合計	450	353	352	482	510	541	562	533	493	464	461	541	5,742	9,049	63.5%
前年度合計	812	834	768	815	792	740	782	744	681	665	687	729	9,049		
前年度比	55.4%	42.3%	45.8%	59.1%	64.4%	73.1%	71.9%	71.6%	72.4%	69.8%	67.1%	74.2%	64		

新横浜リハビリテーション病院内からの紹介	4名
居宅介護支援センター	2名
訪問リハビリ	2名
外部居宅介護支援事業所紹介	9名

⑦終了利用者 29名

内訳

施設入所	4名
入院	2名
死亡	2名
卒業	3名
他施設移行	4名
コロナ感染予防	5名
その他	9名

⑧利用休み理由

体調不良	38.0%
受診	10.0%
入院	2.0%
ショートステイ	9.0%
私用・家族都合	18.0%
コロナ感染心配	11.0%
その他	12.0%

居宅介護支援センター

1 業務体制 (担当業務、人数)

●人員構成

- ・管理者兼主任介護支援専門員 1名
- ・介護支援専門員 1名

●資格保持

- ・主任介護支援専門員 1名
- ・介護支援専門員 2名
- ・介護福祉士 2名

2 業務内容

- ・居宅サービス計画の作成。
- ・サービス事業者等との連絡調整。
- ・提供サービスの実施状況、利用者の状況・ニーズの把握。
- ・院内に併設される他介護保険事業との連携。
- ・介護認定調査。

3 業務状況

職員2名体制により、当院から退院の方をはじめとした、要介護者並びに要支援者(地域包括支援センターよりの委託により実施)の新規受け入れを行う。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約件数	31	32	33	34	34	33	36	36	39	39	40	41	—
内 要介護契約件数	25	26	27	28	28	27	29	29	32	32	31	32	—
内 予防委託契約件数	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	9	9	—
新規契約	1	1	1	1	0	0	3	0	3	1	1	2	14
契約終了	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	4
認定調査件数	1	0	0	1	1	1	0	0	2	0	2	0	8

介護度分布

要支援1	1
要支援2	8
要介護1	4
要介護2	15
要介護3	9
要介護4	3
要介護5	1

性別分布

男性	22
女性	19

年齢分布

64歳以下	4
65～70歳	2
71～75歳	9
76～80歳	6
81～85歳	11
86歳以上	9
要介護5	1

介護認定調査については、担当利用者様の調査と併せて、市区町村からの依頼のある担当利用者以外の調査も実施。

4 取り組みと成果

契約利用者数については、新規受け入れの件数が終了件数を上回り、増加につなげることができた。新規利用者について、当院から退院した方の受け入れが主となっているが、地域包括支援センターなどからの受け入れも行うことができた。

5 今後の課題

人員構成変更により、2021年度より職員1名体制となる。まずは人員体制に合わせた業務の再構築を行う。

当院退院の方で、支援を必要とする方の受け入れを円滑に行うためにも、当院総合相談センターとの連携の強化をはかっていく。

健診部(新横浜健診センター)

1 業務体制 (担当業務、人数)

●人員構成

営業3名、業務3名、事務3名

2 業務内容

【巡回健診】

企業や学校等への巡回健康診断。

- ・一般健康診断
- ・特殊健康診断
- ・生活習慣病健康診断等

【ストレスチェック】

ストレス度合いの判定や集団分析。

【インフルエンザ予防接種】

巡回による季節性インフルエンザワクチンの集団接種。

3 業務状況

前年度末より新型コロナウイルスの影響で巡回健診を延期・中止とする健診先が出始め、繁忙期である4月は3件のみの実施で2020年度がスタートしたが、6月以降は通年実施している健診先に加え、延期としていた健診を並行して実施することができた。

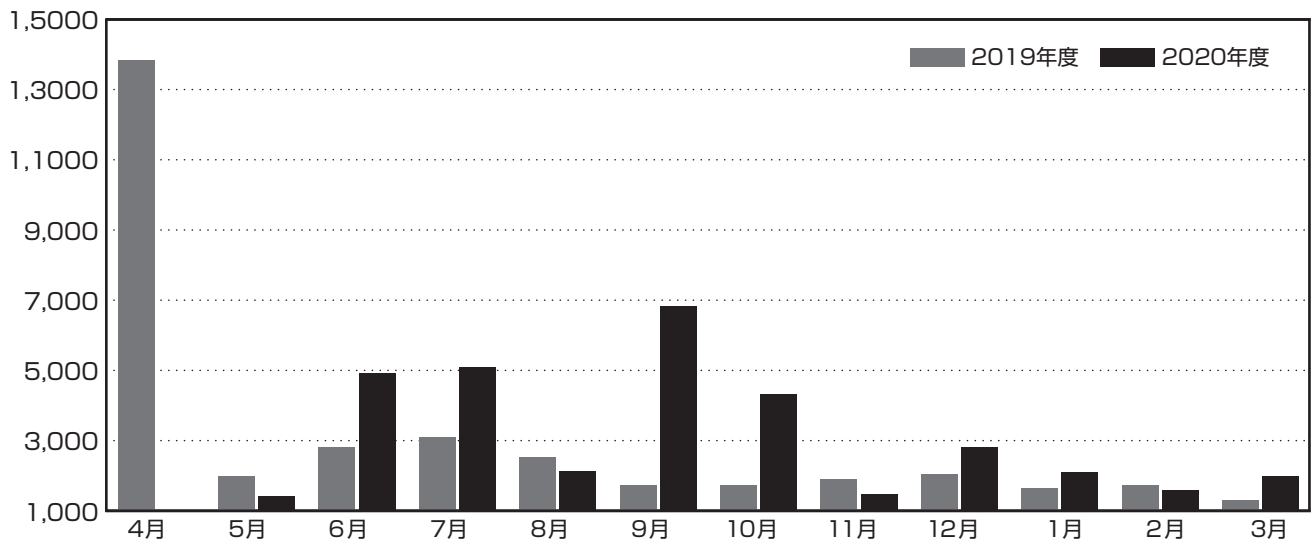
4 取り組みと成果

極力3つの密を避け、分散受診の推奨や健診時間の延長、スタッフの増員など感染対策に留意しながら健診を実施。また健診先からの紹介や協会けんぽ加入事業者からの問い合わせ等により新規を獲得して、一部の健診が中止となったものの前年度比では新型コロナウイルスの影響を最小限に収めることが出来た。

スタッフの感染対策として出勤時の体温チェック、マスク・フェイスシールド等の着用、手指消毒を徹底し、陽性者が出ることはなかった。

5 今後の課題

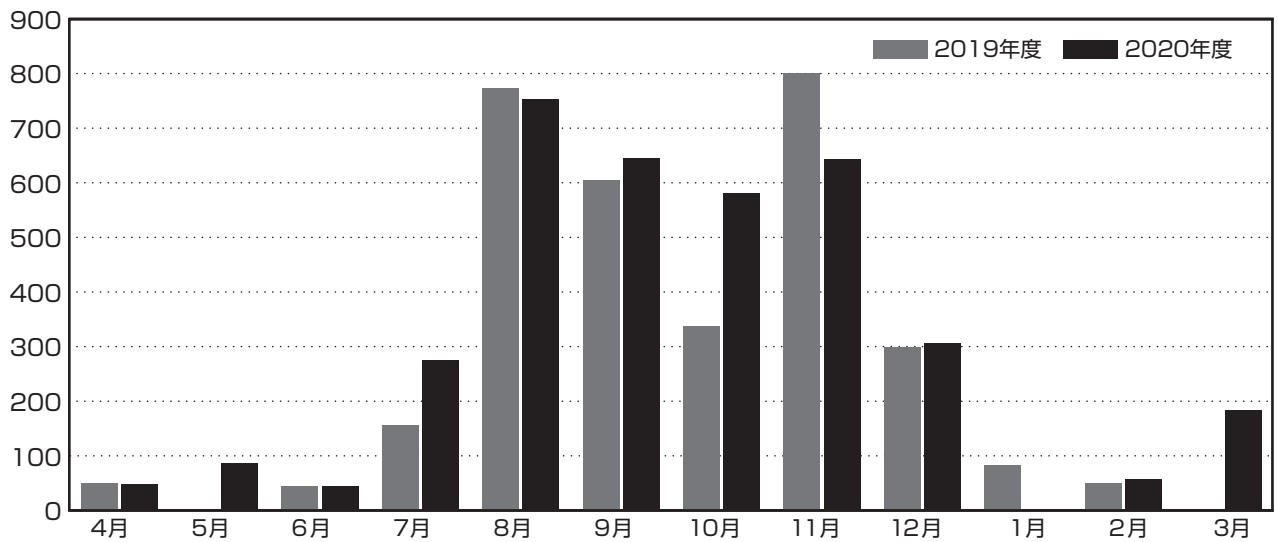
- ・経験の浅い職員へのOJTによる教育体制の充実。
- ・健診の効率的な日程調整および健診車の稼働率UP。
- ・健診車(胃胸部車)の更新。



●巡回健診受診者数

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	13,827	1,972	2,810	3,097	2,517	1,716	1,736	1,898	2,050	1,632	1,738	1,297	36,290
2020年度	142	1,409	4,927	5,081	2,112	6,834	4,330	1,478	2,818	2,094	1,597	1,969	34,791



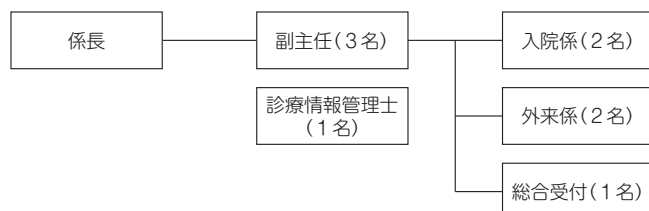
●巡回健診受診者数

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年度	51	0	44	157	774	605	338	801	300	83	51	0	3,204
2020年度	48	87	44	276	753	645	581	644	307	0	58	184	3,627

医 事 課

1 業務体制



2 業務内容

総合受付、入院係、外来係の3つに担当を分け業務が行われているが、状況により担当を変えて業務が滞らないよう取り組んでいる。

主な業務として総合受付では、初診再診の患者受付、患者家族や業者受付、書類受付を担当し、入院係は代表電話対応、入退院受付に退院会計業務を行い、外来係は外来受付及び会計、健診受付業務を担っている。

また、診療情報管理士も1名常駐しており、主に診療報酬明細書の見直しを行い且つ診療情報管理士として施設基準維持に努めている。

3 業務状況

総合受付では1日約40～70件の各種受付、文書完成後のチェックと並行して、患者保険情報の確認、会計業務を行う。

入院係は1日約4件の入退院と約120人分の診療報酬明細書準備の他1日約50件～70件の外来予約等も含めた代表電話対応を行う。

また外来係は1日約13件の外来患者対応、健診準備、入退院と代表電話対応のサポートを行う。診療情報管理士は1月約160件の診療報酬明細書の確認を行う他、原点返戻等の調査業務などを行っている。

保険請求業務については月平均で入院が160～170件、外来は350～400件あり、ミスのない請求業務を行うため、二重チェック以上を徹底して行いながら取り組んでいる。

4 取り組みと成果

・新型コロナウイルス患者への対応

新型コロナウイルスの影響から様々な問い合わせが当院にも寄せられたことから情報収集を行い、市への案内や当院で出来ること、現在の近隣状況などの正しいアナウンスが出来るよう心掛けた。

・査定減少への取り組み

過去の査定内容を見直し、指摘された内容の傾向について共有及び、同内容発生時特にリハビリについて、高齢者リハビリへの必要性を詳記として査定減を図った。

・入院初日面談の強化

入院初日の説明事項増加に伴い、医事課担当部分の説明内容に見直しをはかり、入院時の患者家族対応の負担時間の軽減に努めた。

5 今後の課題

・残業時間の短縮

個人差はあるが、月平均30時間の残業が発生しており、時間短縮のため、医事課内で業務の再分配を行い、残業時間削減を目指していく。

・増床に向けた取り組み

増床後の新棟では今まで経験のない施設基準に対しての会計が予想される。そのため、患者を待たせることが無いよう、また正確な請求業務が出来るように医事課内において勉強会を行い、会計を含めた窓口業務の質向上を目指す。

総務課

1 業務体制（担当業務、人数）

- ・事務職員6名 ・営繕2名

2 業務内容

【法務】

- ・官庁届出、保健所立入検査、監査、施設基準届出、補助金申請、就業規則、委託契約

【労務・給与】

- ・給与計算、厚生年金・雇用保険料等の税金業務、マイナンバー管理、職員の健康診断及びストレスチェックの実施

【職員採用・教育】

- ・募集、採用、退職、勤怠管理、福利厚生、障害者雇用

【庶務】

- ・院内会議、年中行事、掲示物、ホームページ更新、法人広報誌、郵便物、宅急便、更衣室管理、院内保育室管理、送迎バスの運行

【用度】

- ・診療材料や消耗品等の管理発注、検品業務、払出し業務

【防災管理】

- ・消防避難訓練の実施・計画

【施設・設備管理】

- ・消防用設備、電気設備、非常用発電機、空調設備、昇降機、電話設備、貯水槽タンク、水質管理、害虫駆除

3 業務状況

病院運営に関わる、関東信越厚生局、市役所、保健所等への届出や申請を行っている。また、職員の採用、福利厚生等の労務管理、物品の受注、建物や設備の修理、入替等の手配、病院運営の基幹的業務の役割を担う。

4 取り組みと成果

2020年度は、コロナ禍に於ける物流停滞時の医療物品の確保や、代替品の模索等、これまでの経験から出来る対策を講じ対応した。加えて関連する補助金申請を行った。採用活動については、現地での直接採用は難しく、オンラインでの対応に切り替え、人材を確保した。

5 今後の課題

- ・事務職の専門性を上げる。経験年数よりも、実績としてどのような成果を上げたのかをつきつめる。ルーティンだけではなく、その業務が院内で果たしている役割や、こういった結果に結びついているかを俯瞰し、自身の強みや課題を捉える。
- ・日々スキルアップするために、いま任されている業務を受け身で漫然と業務をこなすのではなく、全力で取り組むことが重要。小さなことでも目の前の課題に一つ一つ対応していく。
- ・自分自身や自院を俯瞰することで次の行動を予測し、最適な業務のプランを選択出来る。固定観念にとらわれず視野を広げていくことが、結果的には自分らしいキャリア・働き方にもつながる。
- ・病院全体に共通認識の下、個々の働きやすい環境を実現し広める為に邁進する。

経 理 課

1 業務体制

病院経営に関わる情報収集、分析、意思決定支援を補完するため、特に総務課・医事課・連携室との情報を共有し、管理活用する。

●人員構成(2020年4月1日～2021年3月31日)

職員数		2019年度(対前年度)		
2020	2021	増員	減員	差引
3	2	0	1	-1

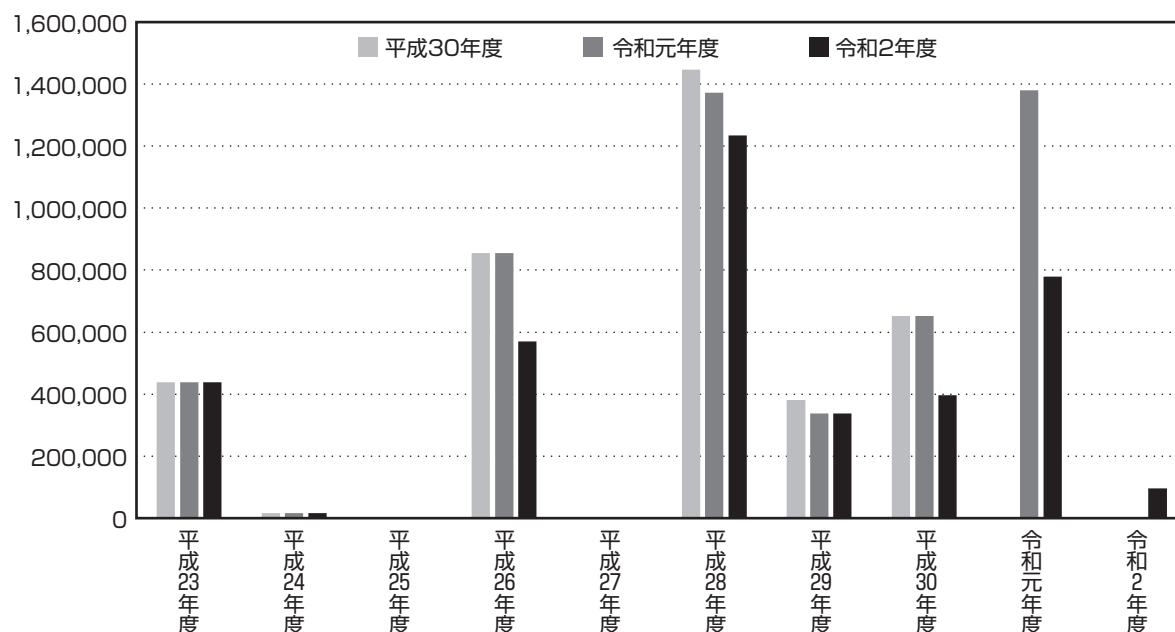
2 業務内容

- ・病院の財務管理
- ・病院の資産管理
- ・病院の経営分析管理

3 業務状況

日常の現金預金の出納管理業務から損益計算書、貸借対照表などの財務諸表の作成や病院運営に有用な情報を提供する。また、法人確定申告書をはじめとする各種申告書の作成をする。

●未収金残高



4 特に力を入れたこと

- ・医業未収金の回収
データに基づく病院経営ができる環境づくりのため、以下のデータ整備を行った。
 1. 固定資産・リース資産データ化
 2. 売上金のデータ化(患者個々の未収金管理の確立)
 3. 健診部セグメント別売上管理の確立

5 今後の課題

- ・病院病棟ごとの資産管理システムの構築
- ・バーコードによる棚卸管理の確立
- ・病棟ごとの原価管理収支報告書の作成
- ・キャッシュレス会計の確立・運用の実現
- ・外部の勉強会などに積極的に参加し、個々のレベルアップと情報共有で今まで以上に病院経営に有用な情報提供ができるよう努力する

医療情報システム室

1 業務体制 (担当業務、人数)

●人員構成 (2020年4月1日～2021年3月31日)

職員数		2020年度 (対前年度)		
2020	2021	増員	減員	差引
1	1	0	0	0

2 業務内容

- ・電子カルテシステム運用・管理
- ・院内システムサーバ管理・監視
- ・各種ソフトウェア関係管理
- ・院内IT機器管理
- ・病院ホームページ運営・管理
- ・院内インフラ管理
- ・ヘルプデスク業務
- ・電子カルテ管理委員会運営

3 業務状況

システム室は1名体制で業務を担っており、電子カルテシステムの安定稼働を目的にサーバの監視業務、システム関係のヘルプ対応などを主として業務に励んでいる。

また、システム管理のほかに院内インフラ関係の管理や病院ホームページの運営なども行っている。

4 取り組みと成果

病棟業務の根幹部分にあたる電子カルテシステムの安定稼働を目指し、日々サーバの監視・端末のメンテナンスを実施した。2020年度のサーバ稼働率やヘルプ対応件数は下図の通りである。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症流行に対する、感染対策として、外部からの面会禁止、外部研修への制限等、直接的に人と接触することが困難になってきている。医療情報システム室の支援として入院患者を対象にオンラインでご家族と面会ができるように面会システムの環境構築、外部から提供された動画を病院内イントラに掲載し、アンケートをパソコンで入力・集計できるようアンケートフォームの作成を行った。

5 今後の課題

現行の電子カルテシステム関連サーバ保守契約の更新と、現在システム利用で使用しているWindows 8 端末も調達が難しくなっているため、システム安定稼働のため電子カルテシステムのバージョンアップ・サーバの更新を行う必要が出てきた。

システム更新にあたり、新バージョンへの移行、新サーバへのデータ移行が円滑に進められるようシステムベンダーと病院側の間に立ち、意見のヒアリング、スケジュール管理に努めていく。

●サーバ稼働率

	最大稼働時間	停止時間	サーバ稼働率	前年度稼働率
業務時間 (8:30～17:30)	2912.0時間	0時間	100%	100%
業務時間外	5824.0時間	4.5時間	99%	99%

●システム室ヘルプ対応件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
対応件数	122	87	113	110	90	130	119	94	112	98	88	112	1,275	1,198

